



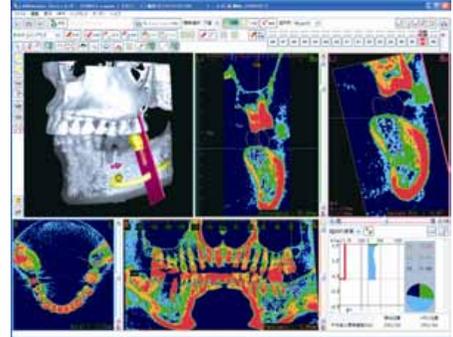
細かさとCT値で「見る」から「診る」へ



GENDEX[®]
GX CB-500[™]

世界で唯一のCT値

歯科用CTでも医科用CTと同じように、CT値が出力されるべきでは？ そんな思いがつい実現。歯科用CTの中でも最高レベルの細かさはもちろん、世界で唯一のCT値により歯科用CTでも臨床的骨質診断が可能になりました。「見る」CTから「診る」CTへ—— 歯科用CTの新しいスタンダードです。



「濃度直線性」と「濃度絶対性」、そして「CT値」

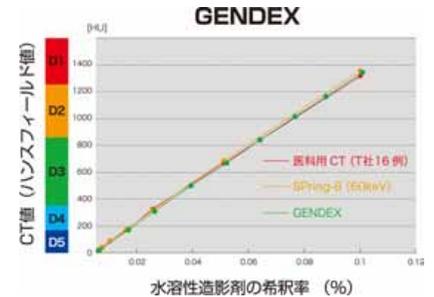
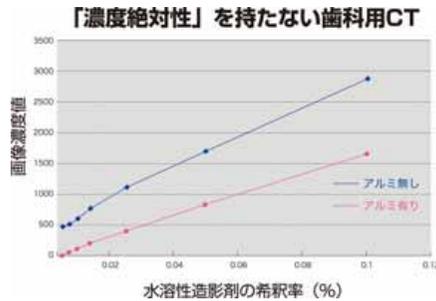
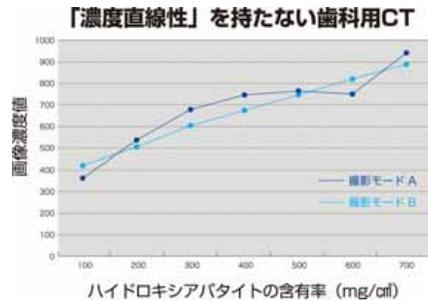
「CT値(ハンスフィールド値)¹⁾」を出力するためには、大前提として画像濃度の「直線性」と「絶対性」が必要である。濃度直線性がないと画像の濃淡による骨密度の判別ができず、濃度絶対性がないとクラウンなどの装着の有無によって画像濃度が変わるため経過観察に支障をきたす。

それら「濃度直線性」「濃度絶対性」が保たれた上に水が0[HU]、空気が-1000[HU]となるCT値が出力されて、はじめて医科用CTと同等の「臨床的骨質診断」が可能になる。GENDEXのCT値は医科用CTや大型放射光施設SPring-8²⁾で計測されたCT値と一致している。

十河、第39回(社)日本口腔インプラント学会発表、2009年より

参考文献 1) Carl E.Misch著 前田芳信総監訳 インプラント補綴 永末書店、2007年

2) SPring-8ホームページ <http://www.spring8.or.jp/ja/>

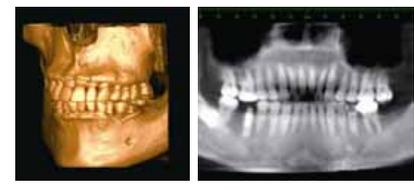


撮影モードを自由に設定

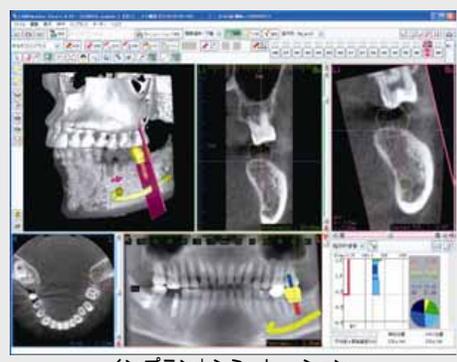
撮影範囲や目的、撮影時間に応じて自由に撮影モードを設定することが可能です。

インプラントモード

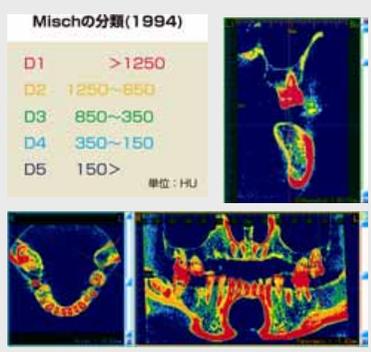
細かさやCT値により「臨床的骨質診断」を可能にしたインプラントシミュレーションに最適なモード。



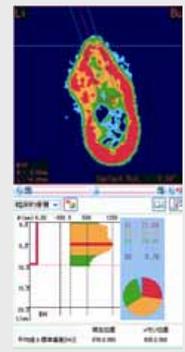
インプラントシミュレーションソフト「LANDmarker」により診断



インプラントシミュレーション



Mischの分類などに応じて骨質を把握



インプラント体表層の骨質をfグラフ化

GPモード

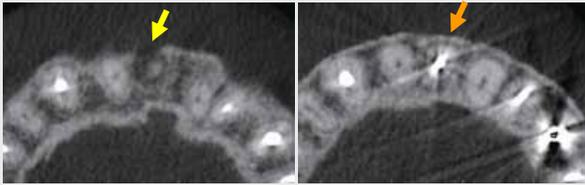
一般診療 (General Practic) に最適なモード。



前歯部根尖病巣と歯槽骨頂



ろう孔を認める。



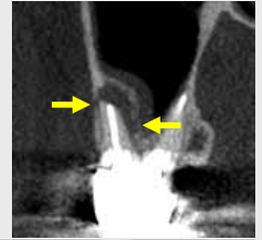
根尖類側部に骨欠損を認める。

歯槽骨頂部には骨が存在する。

臼歯部根尖病巣



(デンタル画像)



口腔内にはろう孔は認められないが、CTにより骨の穿孔が認められる。同歯根の口蓋側にも骨の穿孔があり、上顎洞粘膜の肥厚が考えられる。

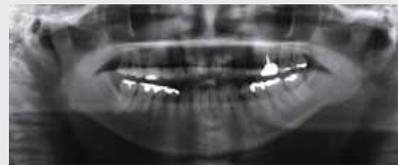
水平埋伏智歯



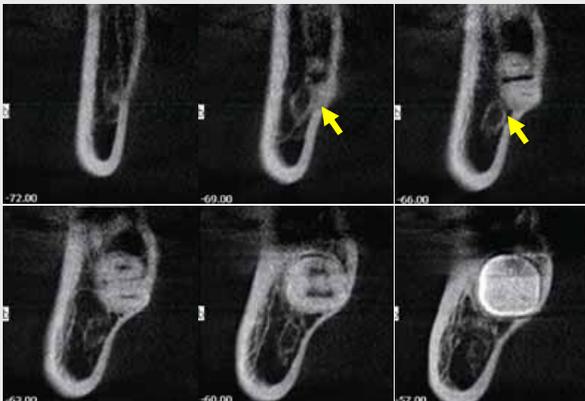
(GENDEXのパノラマ撮影による画像)

顎関節

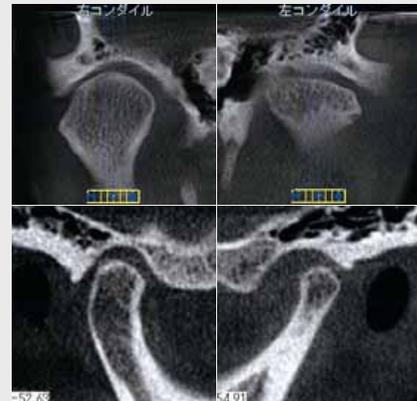
右側が咀嚼側(左側は全く咀嚼していない)。臨床症状なし。



(GENDEXのパノラマ撮影による画像)



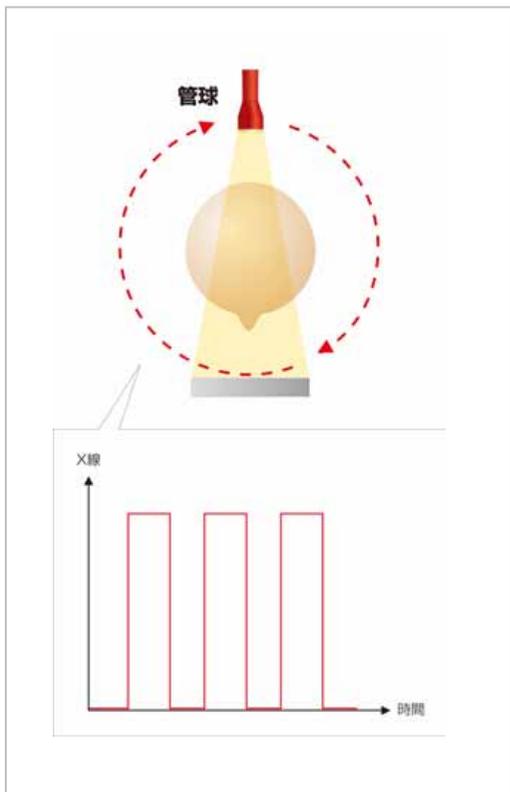
根尖部では下顎管と非常に近接していることがわかる。



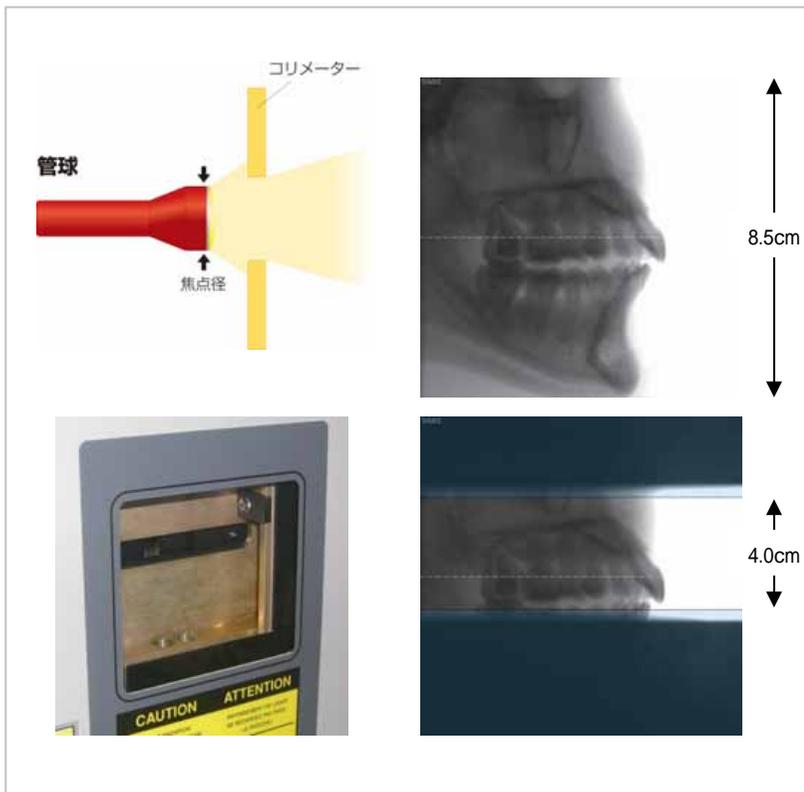
顎関節形態、関節腔の左右差が著しい(閉口時)。

患者さまに優しい低被曝

1. 断続的なパルスX線により
トータルでの被曝量を軽減。



2. モード毎のコリメーター(鉛遮断)により
さらなる低被曝を実現。



パノラマ撮影も可能

従来のからのパノラマ画像もこの1台で撮影可能です。



CTデータによるレイサム画像



パノラマモードによるパノラマ画像

世界が認めた品質

北米・ヨーロッパを中心に世界トップクラスのシェアを誇る歯科用CTメーカーの製品です。

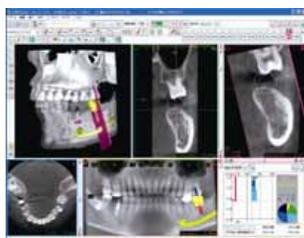


インプラント治療のトータル・ナビゲーション

日本No.1のシェアを誇るiCATのインプラントシミュレーションソフト「LANDmarker Direct」との連動により、CT撮影だけでなく、インプラント埋入シミュレーション、さらにはガイドサージェリーと、「Landmark System」によってインプラント治療をトータルにナビゲートします。



CT撮影(診査)



シミュレーション(診断)



ガイドサージェリー(手術)